

第3回県政ひざづめ談議結果概要

○開催日時：平成21年5月26日 16:00～

○開催場所：男女共同参画センター（ぴゅあ総合）

〔司会〕

それでは知事が到着いたしましたので、『県政ひざづめ談議』を始めさせていただきます。本日の進行を務めます広聴広報課の堀内でございます。よろしくお願いいたします。まず始めに横内知事からあいさつをいたします。

〔知事〕

皆様こんにちは。横内です。

今日はお忙しいところをこうしてお集まりをいただきまして本当にありがとうございます。皆様方は「やまなしときめきネットショップ」を運営しておられて、山梨の農産物をネット販売していただいているということでありまして、そういう形で山梨を元気にしていただいていることを本当にうれしく思っております。

山梨の農業というのがどういう農業かと言いますと、全国的に見ても一言で言うと非常に質の高い農業が行われているんですね。桃だとか葡萄だとかスモモとか、これは日本一ですし、それから野菜なんかも、まあ面積が小さいですから生産量は多くはないんですけれども、スイートコーンにしても甘々娘にしても、野菜も非常に質のいいものが採れますし、それから米だって日本一、去年日本一になったんですね。日本穀物検定協会という、米の品質を管理している協会があって、そこが毎年米の食味のコンテストをやっているんですけれども、そのコンテストで日本一おいしいと。いつも新潟の魚沼産こしひかりなんかが有名になるんですけれども、それよりもおいしいと言われていた梨北の米なんですけれども。私の地元の韮崎でできたものなんですけどね。そういうふうに非常に米も質の高い米ができているというふうに、非常に質の高い農業が行われておりまして、したがって対収、農業面積当たりの収穫高というのは全国の都道府県の中でも一番高いということで、それだけ生産性の高い農業が行われているわけなんです。

ところが我々も非常に悩みが多くて、やはりいろんな問題があるわけですね。一言で言うと一番問題なのは高齢化が進んでいて、同時に跡取りがいないということですよ。農業をしている方々、65歳以上の方が6割を占めてきている。農業をおやりになっている人、皆さんはお若いんですけれども、アラサーとかアラフォーとか、そういうことなんですけれども、まああらかたの人は大体65歳以上という方が多いわけです。

そうすると大体あと5年、10年もすれば結局もう足腰が立たなくなって農業が段々できなくなってくる。一方で跡取りがいるかというところ、大体農家10軒当たり跡取りがいるところは2軒とか3軒しかないということですから、そうすると結局今農業をやっている人たちができなくなれば、もう段々荒らしづくりになり、耕作放棄ということになって、遊休農地になっていくということですね。

だから私が心配するのは、甲府盆地というのは桃、葡萄ということで、独特の農業計画があるわけなんですけれども、これがあと10年もするとガン細胞みたいに荒らしづくりの畑が広がっていつてしまうんじゃないかと非常に心配をしているわけですし、何とか今農業

を元気にして再生をしていかなければならないというふうに思っているわけなんです。しかし、そういう問題はあるんですけども、一方において明るい材料というのもありまして、一つは皆さん方のように若い方々で農業を大いに元気にやっという方々が増えてきていると。東京なんかの若い人でも農業をやろうという人が多いんですよね。また、農業に関心をもっている企業が非常に多いということがある。

それから何と言ってもやっぱり主婦の皆さんは食の安全・安心というものに関心が強くなって、やっぱり国産の農産物に対する評価が高くなってきている。だから地産地消をはじめとして、皆さん方がお作りになっているようなこういう物をできるだけ消費しようという動きが全体として消費者の間に大きくなってきているということもありますから、まあ農業は一方において大変なんですけれども、しかし農業が再生していくチャンスでもあるというのが今の時だというふうに思うんですね。

そういう中であって、皆様方がネットショップという新しい形で本県の農産物をいろんな形で全国に送り出しているということで、非常に新しい最先端の試みとして私たちは評価をしているところであります。

しかし最先端の試みであるだけに色々な悩みとか課題もおありになるに違いないというふうに思いますので、今日はそういうことを遠慮なくお話をいただければありがたいというふうに思います。『ひざづめ談議』ということですけども、要するにざっくりばらんに何でも日頃思うこととお話をさせていただきたいということですから、どうかよろしく願いいたします。今日はどうも皆さんありがとうございました。

〔司会〕

それではここで本日出席しております県の担当者を紹介させていただきます。

遊休農地対策などを担当しております有賀農村振興課長でございます。

果樹振興対策などを担当しております樋川果樹食品流通課長です。

農村女性活動の推進ですとか担い手対策などを担当しております赤池農業技術課長です。

それでは早速意見交換に入らせていただきたいと思いますというふうに思います。

〔知事〕

これはみんなネットショップで販売しているんですか。

〔参加者〕

今から販売するんです。

〔知事〕

これから販売するんですか。

〔参加者〕

している物もあります。試作品も。

〔知事〕

この干しぶどうはご自分のところでお作りになったんですか。

〔参加者〕

うちのほうでデラウェアを作っていないので、ハウス産で実験的に作りました。本当は露地の葡萄ですね、それを使って作りたいです。今これは家庭用のオーブンで作ったんですけれども・・・。

〔知事〕

オーブンで、オーブンで焼いちゃうわけですか。(笑い)

〔参加者〕

3時間でできますので・・・。

〔知事〕

そうすると、こうできるわけですか。それはおもしろいですね。干しぶどうというのはもうほとんどブラジル産ですものね。

〔参加者〕

そうなんです。山梨県のお土産を買いに来たという県外の方も、全部裏を見て国産じゃない、チリ産、中国産であったり、みんな外国産の物ということでがっかりされる。ネットショップとして東京の富士の国やまなし館のほうで販売を行ったんですけれども、そこで干しぶどうを試作品としてお客様にお配りしましたら、自然の甘みが凝縮されているということでとても好評でした。

〔知事〕

これですか。

〔参加者〕

大粒のほうですね。巨峰のほうで・・・。

〔知事〕

これもね。干しぶどうと言いながらも、しかし少しまだ柔らかいというか・・・。

〔参加者〕

しっとり、はい。

〔参加者〕

そこがまたおいしいんですよね。

〔参加者〕

戻したりしなくて、そのまま食べていただけますので。

〔知事〕

ケーキなんかの材料にもなるしね。こういうのをお作りになっている。大したものですね。

あなたは何をしておられるんですか。

〔参加者〕

私はそのデラウェアを・・・。

〔知事〕

デラウェアを、これね。

〔参加者〕

本当に農産物だけで、加工品はちょっとまだやっていないんですけど。

〔知事〕

どちらでお作りになっているんですか。

〔参加者〕

塩山です。

〔知事〕

塩山でね。甲州市でお作りになっている。いいデラです。これはまだハウスですね。

〔参加者〕

ハウスです。

〔知事〕

今年は割といいでしょう。

〔参加者〕

そうですね。例年に比べてちょっと早いですが。

〔知事〕

割と甘みも強くて大きいですね。

〔参加者〕

そうですね。

〔知事〕

そうですか。それでネットで販売を、もうすでにやっているんですか。

〔参加者〕

いや、来月の頭から・・・。

〔知事〕

来月からね。じゃあすでに始められている方は今手をちょっと挙げていただいて、何人ぐらい。これいつから始めたんですかね。

〔参加者〕

3月。3月3日にオープンです。

〔知事〕

じゃあまだ本当に2カ月ちょっとでね。ああそうですか。
奥さんは何を出しておられるんですか。

〔参加者〕

ルバーブのジャムです。イギリスにあるハーブのルバーブジャムが予約を大分いただいたので作って、もうお送りしました。

栽培に消毒もいらないし手間が掛からないので農家の忙しい方の副収入にできたらと思って研究しています。

〔知事〕

これルバーブって言うんですか。原産地はどこですか。

〔参加者〕

原産は分からないんですが、イギリスでは健康食品として毎日ほとんどの方が食べています。

〔知事〕

ああそうですか。何かふきみたいなものですね。それをジャムにするんですね。健康食品ということですね。

どうですか、始めておられる方、割ともうかなり予約が来たりしておりますかね。

〔参加者〕

まだまだ、これからです。

〔知事〕

まだですか。なしのつぶてですか。

〔参加者〕

そんなこともないです（笑い）。

〔参加者〕

あと桃なんかも予約が入っています。

〔知事〕

予約がね。今まだハウスの桃ですが・・・。

〔参加者〕

露地の予約です。露地桃の予約。

〔知事〕

露地のね。ああそうかそうか、じゃあ7月にできたらもう送ってね、そうですか。まあ市場に出すということもそれは必要なことですが、しかしやっぱり市場だけではなくてね、いろんな販売のルートがあるということが大事ですよ。

〔参加者〕

一つお願いがあるんですけど、パンフレットをこういう形で作ってあるんですけども、これを県の施設の所に置かしていただきたいんです。

〔知事〕

いいじゃないですかね。それはいいですよ。

〔参加者〕

よろしくお願いします。

〔知事〕

言って下さい・・・どういうふうにしましょうかね（笑い）。どういう所に置きたいかというようなことをある程度言ってもらえれば、そして何部ぐらいずつというのを決めてくれれば。

〔参加者〕

お願いします。

〔知事〕

もうパンフレットを作りましたか、たくさん・・・これから作る・・・。

〔参加者〕

500部は作って・・・。

〔知事〕

500、えらいまた素晴らしいですね。そうですか。これいいじゃないですか。これはご自分たちで作っているわけですかね。

〔参加者〕

写真は県の農政部のほうから果物の写真などをお借りしました。観光の風景の写真もお借りしましたのでありがとうございます。

〔知事〕

これにもね。これはじゃあパソコンでお作りになって、これは印刷屋さん頼んでいるんじゃないんですね。

〔参加者〕

自宅のパソコンで作って印刷をお願いしています。

あと各自それぞれが使えるようにデータを持ってやっております。

〔知事〕

そうですか。しかし500部じゃちょっと・・・(笑い)、とりあえずそのぐらいしかないんでしょうかね。

〔参加者〕

富士の国やまなし館でみんなキャンペーンで配っちゃって手元にありませんので、これから希望をまとめて印刷のほうは考えます。

〔知事〕

じゃあそれ一つできたら言っていたいただいて、まあできる前でもいいですけど、何部ぐらい・・・という所がいいのか、割と人が多い所ですよ。美術館とか・・・。

〔樋川果樹食品流通課長〕

例えば直売所みたいな所も一つは、そういう向きの人たちが来ているので、美術館というよりもむしろ直売所みたいな所のほうが・・・。

〔知事〕

しかし、直売所じゃ、商売敵だからね(笑い)。

〔参加者〕

観光施設のほうがいいのかな。

〔知事〕

観光施設がね。まあまたちょっと工夫して、あとでご連絡をしましょうね。分かりました。

〔参加者〕

あと関連して県のホームページのほうの観光のリンクのほうに、ときめきネットのホームページのほうを掲載させていただければと思うんですけども・・・。

〔知事〕

そうですね。

〔参加者〕

各ショップみんなブログをほぼ毎日更新してまして、山梨県の桃の様子ですとか、もちろん農産物の成長の具合ですとか、山梨の良さのほうをPRもしておりますので、それを見ていただいた方が山梨に一回来てみたいとか、いずれ住んでみたいとか思うような形になると思いますので、是非リンクできたらと思います。

〔知事〕

その山梨の県のホームページからリンクできるようにと・・・。

〔司会〕

またうまい情報発信の仕方を相談させてもらって、なるべく目立つように・・・(笑い)。

〔参加者〕

よろしくをお願いします。

〔知事〕

どうですか、ほかにやっておられる方で・・・。

〔参加者〕

先に加工品の話をしていただいてもよろしいでしょうか。

どうして加工品を作ろうかと思ったかといいますと、高齢化が進んでいる、もしくは兼業農家で農家をやっている方が多いので、どうしてもハウスまでは能力的にちょっとできないと。それで露地栽培が中心になっている方が多いと思うんです。でも、露地栽培ですと時期が重なり、価格が下がって収入が減っているという状況にもなります。それなら冷凍保存して、農閑期に加工場のようなものがあれば加工して、一年中山梨の商品が提供できるような形にできたら、一年中農家さんも収入が得られるんじゃないかと思ってます。また女性が集まって新商品の開発ですとか、こうやったらおいしくできるよとか、そうい

う話をしていますととても楽しくコミュニケーションも取れます。

〔知事〕

時々集まれるんですか、皆さんで。

〔参加者〕

農作業で今それぞれが忙しくなっているんですが、11月になりますとみんなが集まったりします。

〔知事〕

確かにそのとおりですよ。こういう農産物の加工商品というのがいい物ができればね、最高ですよ。特に桃なんて本当に旬の物でね、7月に入ればパタパタと出て、そしてガタンと値段が下がって、そしてもう8月過ぎて9月になればおしまいだものね。

〔参加者〕

山梨市に厨房がありますベリーズキッチンといって、お母さんたち5人のグループでやっています。その中に農家さんの方が2人いて、もう出せないようなものを安く提供していただいて、最初はジャムにしたのがきっかけだったんです。これはジャムだけじゃなくてほかに何かできないかということで、チーズケーキとかお野菜を入れたお菓子を作っています。今日持って来たのも山梨県産の物を使って作っているんです。なるべく山梨市内の物や県内の物を使っているんですけど。

〔知事〕

この箱もやっぱりどこかで調達されて。

〔参加者〕

100円ショップで・・(笑い)。

〔知事〕

100円ね。これはじゃあ印刷したわけですか。

〔参加者〕

いいえ、もうそういうふうになっているので。私たち厨房しかなくて、子どもに今とてもお金が掛かる時期なので、店舗というものを持ってないんですよ。それでフルーツ公園さんでやるイベントとか、勝沼の朝市とか、イベント販売が今私たちは中心なんです。それでネットショップでも販売できないかなということで参加させていただいているんです。

〔参加者〕

市川三郷町で甘々娘を作っています。新規就農で5年前から農産物を作っているんですけど、やっぱり農家の皆さんがすごい一生懸命いい物を作っています。それを発信していきたいくて私はネットショップを始めて、そしてブログでお伝えしています。

〔知事〕

それはもう甘々娘そのものを、野菜を売っているんですね、生の野菜をね。

〔参加者〕

そうですね。加工はできないので、本当にその物のよさを。

〔知事〕

あれは本当に加工しないでそのまま生で食べてもうまいですからね。今でも相当いい値になるでしょう。

〔参加者〕

今はいいですが、段々出てくるとやっぱり一生懸命作っても安くなってしまうので・・・。

〔知事〕

何反歩ぐらいやっているんですか。

〔参加者〕

私はまだ4反しか。

〔知事〕

4反ね。それでも甘々娘だけですか。

〔参加者〕

そのあと茄子を作って、野沢菜もやってたり、その地域の農産物を作っています。

〔知事〕

甘々娘は本当に夜泥棒に取られないように気を付けて下さい（笑い）。そうですか、それはご苦労さんですね。旬の甘々娘なんか、素晴らしいですよ。

奥さんはどういうことをやっているんですか。

〔参加者〕

私は身延町に住んでおります。身延町の大島という所は身延線と富士川に挟まれた本当に細長いような所ですので、これと言って特産物というものもないし、みんな高齢化していますしね。やっぱり地産地消とは言っても自分たちが作った物を猪とか猿とか鹿とか、そういうものに荒らされるんですよ、すごくて。猿なんかもう何から何まで、大根も逃げ

る間に抜いて逃げていくんですね。人間より頭がいいな、なんて思っていますけどね。そしてゆずのような刺のある物も平気で取っていったり、家の中に入りこんで仏様のお供え物まで食べたり、すごいんですよ。そして猪もすごいし、鹿も富士川の中洲に巣を作って。

そして田んぼに入って稲を食べるし、大豆の葉っぱは食べちゃうし、さつま芋も食べてしまうし。そうになると何も採れなくなるんですよ。猪というのもこれから田んぼに入って、実ったのを食べちゃうんですよ。その田んぼ一枚が収穫ゼロになっちゃうんですよ。

〔知事〕

あの大島辺りでもやっぱり田んぼなんかやられますか。大島と言えども本当に県道沿いで狭いけれども、それでも平らない土地じゃありませんか。

〔参加者〕

水もいいし、おいしいお米が採れるんですよ。私たちうちでは3反歩ぐらいは作っているんですけど、うちだけの消費じゃちょっと多いので少しずつ皆さんに分けています。

〔知事〕

そこにもやっぱりそういう野獣の害というのはあるんですか。

〔参加者〕

一生懸命耕して作ったのを、いいなと思うとみんな取られちゃうものですからね。何か聞きますと町で電気柵設置に対する補助があるようなんですが、30万円までで半分、7割補助、8割補助と言うんですよ。だけどそれだけだとわずかな所しか囲えないんですよ。

猿なんかは頭がいいから電気が通じてない時に入って来ちゃうんですよ。だからといって、今度は金網で上も回りも全部囲った人がいるんですよ。囲った所が1畝弱ぐらいの所で23万円掛かったんですって。そして半分補助があったと言うんですけど、23万で1畝もないぐらいな所で、それじゃとても・・ね。そして何か別の話を聞きますと、三珠とか豊富のほうでも何か山と畑の間に柵を作ったというお話を聞きましたけど、立ち木が倒れるとその柵もだめになってしまうし、そうするとそこをいいことに鹿、猪なんかは通り道にするらしいんですよ。そういうものも作って下さるのはいいけど、後の処理が・・というようなことでやっぱり頭を悩ましているようですね。私たちも一生懸命土地を守って作ってはいきたいけど、作ったら、取られるわで、どうしたらいいんでしょう。

〔知事〕

大島の東の山の所にずっと柵を作ったらどうかと思いますね。河川敷に生息しているのもいますけれども、あれはやっぱりしょうがないから駆除するしかないですね。

〔参加者〕

増えるから囲ってというと、人間が柵の中に住まなきゃならなくなってきちゃいますで

しょう。それじゃちょっとと思うので、やっぱり猿も鹿も猪も少し量を減らすように何とかしてもらえればね。

〔知事〕

そうですね。それも一生懸命やっているんですよ。

〔赤池農業技術課長〕

そうですね。管理計画を作りました。

〔知事〕

管理計画を作りまして、相当な頭数を駆除しているわけですね、猟友会に頼んで。だから一昨年何かに比べればずいぶん増やしていますけれどもね。それでもなかなかですね。

〔参加者〕

そうですね。でもなんかこの冬は線路にみんな腰掛けていたというような。

〔知事〕

ああ、猿がね。

そうですね、猿はみんな撃つのを嫌がるんですよ。

〔参加者〕

そしてそのしぐさがかわいくて、写真を撮ろうと思ったらポーズをとって大笑いしているんですけど、そのくらい猿がすごい、子連れで集団で来るんです。

〔知事〕

そうですね。南巨摩のほうはそうですね、確かにね。

〔参加者〕

本当にわずかな土地で少しでもいい物、おいしい物、安全な物を採って、自分たちだけでなく、本当に家庭菜園のような物で安全な物を皆さんに食べていただければと思って私もネットに参加させていただいているんですけど、作っても取られては。何とかいい方策をお願いします。

〔赤池農業技術課長〕

集落全体で電気柵をやって、みんなで来ないようにするというのが大事だと思いますね。県は県で鳥獣の管理計画を作って、さっきも言うように何千頭処分とか管理しているんです。それでもどんどん出てきますから。

〔参加者〕

すごいですよね。猪が鉄道でひかれて、なんていうのが出てくるぐらいですから。

〔参加者〕

鳥獣対策の続きでちょっとお願いしたいなと思っていることが何件かあるんです。一つはネットの張り方ですとか、防護施設の方法を知らない人も多いし、どういうふうにやったら一番いいのかというのが分からないんですよ。その辺のことをDVDにしてもらえないのかなと思うんです。

〔赤池農業技術課長〕

DVDで見るもいいんですが、地域の代表の方や農家の人とかに来てもらって、こういう張り方がいいですよという、安く仕上げるにはこうのいいですよというのを今PRしているんです。軽くて、猿が捕まればこっちに倒れてしまうというような、そういう安くできるものも出ましたので、今年またすぐ研修して皆さんの所へ行くようにします。

〔参加者〕

そういうことが分からないし、情報が伝わってこないのです。どうやって調べていいのか分からなくて、ネットで調べても載っていませんでしたし。

だからまずDVDにしてもらえないかなと。動きで見られるじゃないですか。

〔赤池農業技術課長〕

DVDも検討して、広く皆さんに情報が行き渡るようにしていきます。

〔参加者〕

よろしくをお願いします。

それと今各地で農業イベントがありますよね。例えばスイートコーンの時期にはスイートコーンとか、あと勝沼だったら葡萄祭りとか、そういう時にコンテストを開いたらどうかと思うんですよ。

例えばCDを吊すとピカピカして効果があるって言われて実家でこれをやったんですけど、少し効果があったような気がするんですよ。こういうふうにしたらうちは助かったよとか、そういうことをコンテストしたり、あと各種農業学校ですとか大学に働き掛けて調査してもらう仕組みを作ったりとか、その大学自体の活性化にもなり、お互いいい方向に行くんじゃないかなと思いました。

あとモンキードックに支援するような。

〔知事〕

山梨県内でも今30頭ぐらいいますかね。

〔赤池農業技術課長〕

今17頭まで増えまして、どんどん増やしていきたいんですが、訓練するのがなかなか難しくて・・・。いずれにしてもそういうモンキードックを増やしたり、あるいは警戒システムといって猿に発信機を付けておいて、群れが近づいてくればその集落のほうで音が鳴

るんですね、近づいてきたぞと。そして皆さんで警戒してもらおうというような方法もあります。色々考えているんですが、なかなか特効薬がなくて。

〔参加者〕

何しろ本当に一生懸命育てて、最終的に今日採ろうかなんていう時に限って鳥にバーツとかやられちゃったりとか、本当に食べ頃を知っている。鳥たちとか、猪も。

〔知事〕

鳥もそうですか。鳥の被害もあるんですか。

〔参加者〕

実っていたサクランボが全部やられちゃったりとか、ブログにこれも載せたんですよ。こんなになっていたサクランボだったんですけど、たちまちの間にこのぐらいになっちゃって。やっぱり鳥が空から見ているんで。

〔知事〕

そうですね。どういう鳥なんですかね、これはね。これはえらいことですな。皆さん方も鳥獣害にどれだけ苦しんでいるかというのは改めてよく分かりました。県も一生懸命やっているんですけどね、しかし皆さんのそういう声を受けてね、さらに一段と考えましょう。

〔参加者〕

それに関連して、県の施設でいろんな研究をなさって、その発表会に私たまたま1度行ったんですが、すごいいい発表をしているんですよ。それが参加されている方は農協の人とかで、一般の人は少ないと思うんですよ。だからもっと一般の人が大勢参加できるようにしたらすごい。せっかく県の施設で色々試験した結果を発表しているのに、みんなに知れ渡らないじゃないかなんて。私は農協に入っていないから分からないんですけど、行ってみてすごくいい発表がされていたので感心したんです。そういうPRみたいなものをしてはどうかと思います。

〔知事〕

そういう研究発表会まで出ておられるというのは、普通の方じゃあなかなかやらないことで、それだけご熱心なんですね。

〔赤池農業技術課長〕

知らせ方も大勢の人に知らせるようにしていきます。

〔参加者〕

そうですね知らせ方が・・伝わってこないんで。

〔知事〕

まあ一般の方が知りたいこと、やっぱり野菜の栽培方法だとか、あるいは今の鳥獣害の問題だとか、そういうものについては農務事務所とかまた農協が農家向けの説明会をやっていますよね。

〔赤池農業技術課長〕

普及センターというのがありますから、それと農協に営農指導員がおりますので。

〔知事〕

そうですね。いずれにしても普及センターというところの改良普及員なんかにはもう気軽に電話して、色々今のような話とか、そういうものは聞いたほうがいいですよ。あれ大体どのくらいあるんですか。

〔赤池農業技術課長〕

4カ所それぞれ農務事務所がありますので、どんな質問でもいいですから来ていただければと思います。

〔参加者〕

実際昨日行ったんですよ。「大月市ではどういう指導がされているんですか」と言ったら、「ほとんどやっていないので分からないですよ」と言われて（笑い）、実際出向いたけど補助金のことしか結局教えていただけなくて。何か「実際に何かされているですか」と聞いたら、「やっていない」と言われて、「あー」みたいな。まあ確かに大月はあまり農業をやる人、農業で生計を立てている人はいないですけど。

〔知事〕

これは出来が悪いですね。（笑い）

〔参加者〕

私はここにあるどんぐり味噌と、それから山椒味噌とかを扱っています。

〔知事〕

どんぐり味噌、山椒味噌、なるほど。どんぐり、これ本当にどんぐりですか。本当にどんぐりを使っているんですか。

〔参加者〕

どんぐりが入っています。県の森林総合研究所、そこにまず相談に行きました。そしてその次に学院大の中尾玲子先生、食品加工の教授をやっていたらっしゃるんですけど、そこにもまた行って色々成分などを教えていただきまして、これ2003年に商品化しました。

現在豊富の道の駅で出しております。

〔知事〕

売れますか、相当。

〔参加者〕

去年からぼつぼつ売れるようになりました。

〔知事〕

豊富の道の駅というのは、県下でも本当にトップクラスの売れ行きがいい所ですけどね。

〔参加者〕

私なんかは山地に住んでいるんですね。平地のほうはゴールドラッシュのとうもろこしを一生懸命産地化ということでやっているんですけど、私は山の物を商品化するということが今やっています。山椒の味噌を造ったり、山椒の若芽で佃煮、それを今までは家庭の味だったんですけども、それをもう少し広げたいと。でも販路のほうについてやっぱりそこで行き止まっちゃうんですね。

〔知事〕

しかし豊富の道の駅があるからいいですね、その点は。

〔参加者〕

道の駅にも今年から出せるようになりました。

〔知事〕

どんぐり味噌は、きっと珍しいから皆さん注目はすると思うんですよ。何か横にこういう、その何か説明を書いて、もっともらしく嘘にならん程度に（笑い）、どんぐり味噌を食べるとものすごく健康によくて、例えば糖尿病に効きますとか（笑い）。

〔参加者〕

それはだめですよ。薬事法違反になります。（笑い）

〔知事〕

まあそれはそうですね。まあそれとなく分かるように。（笑い）

〔参加者〕

私は耕作放棄地について提言、ではないんですが、お願いをさせていただこうと思います。私は山梨県指導農業士をいただいていたたり、県の長期計画審議会の産業部会、それともう一つ、この間出させていただいたんですが県産農産物販売戦略会議という、こちらのほうも委員として参画させていただいております。

〔知事〕

先生と言わなきゃいかんですね。(笑い)

〔参加者〕

まず耕作放棄地の前に一点。先ほど知事がおっしゃいました普及所の問題なんですが、普及所は4箇所にも縮小されてしまいました。やはりこの縮小されたことによって私たちのニーズがなかなか伝わらない。農協もJAとして変わってしまったので、昔みたいな近さというものもなくなってしまった。こういう生産物加工品を作る時に普及所の先生方にご指導をいただいたりはするんですけど、やはり4地区ということでもちょっと先生方もかなりお仕事がお忙しい。特に大月のほうでは富士・東部が合併して1カ所しかない、かなり厳しい状態だと思っております。

それともう一つ、県産のドライフルーツ、山梨県としてドライフルーツに力を入れていきましたら、早くはイチゴから、遅くはころ柿までありますよね。山梨県の農産物ってものすごく、先ほど知事も言われたとおり質が高いのです。ただ生食になりますと時期が短いので、岡山、山形ですとか、いろんな所と競合してしまうと金額が下がってしまったり、扱いもやはり出荷になりますと時間が掛かったりします。加工品にもうちょっと力を入れていただいて、特に峡東地域にはそういった加工所がないので、是非県として建物を建てていただき、そこをJAですとか、もちろん普及所の先生方ですとか、そして一般の私たちがお金を払って使わせていただけるというか、うまいそういうふうな方法を考えていただきたい。山梨県の中で、これからますます増えていく耕作放棄地を私たちが維持するという事は段々不可能になってくると思うんです。

私たちがまだ体力があるうちに行政とJAとか、そして普及所、もちろん私たち生産法人、また地域の農業者がともに手を組んで、その遊休農地を打開していくために農地を集約する必要があると思います。それに関しては地権者である方々との話し合いとかというのは、やはり行政でなければできないと思うんです。私も色々調べたところ、山梨県では山梨ルネサンス大綱とか、耕作放棄地活用指針とか、この間はJAフルーツ山梨甲州市センターが耕作放棄地に対しての対策を出しているにも係らず、どんどん農地の遊休化ではなく耕作放棄が進んでいる。これの解消をするには、やはり都会から自然とか、そういったものを求める方たち、興味を持っていらっしゃる方たちを、受け入れるのがなかなか難しいというのは事実なんですが、そういったニーズのある方たちをうまくこの山梨県に取り込んでいくべきだと思います。

〔知事〕

マッチングということですよ。

〔参加者〕

そしてニーズがある方たちと一緒に作ることによって、遊休農地の問題を打開していく、という策が一つと、あとはやはり集約して農地を使っただけのようにしていただく。あと、国とか県は耕作放棄地に関して、所有者にも罰則を与えるぐらいの厳しさがあって

もいいんではないかと思えます。

そしてこれにからめてなんですが、山梨県は、一応葡萄と桃は全国一位を誇りますが、やはり後継者問題が大変なものだと思います。これに関しては、やはりどんなに苦労してもお金が入るとなると息子や娘たちも絶対やっていくはずなんです。県に全てを委託するわけではないんですけれども、うまくその遊休農地を使いながら、遊休農地特別農産物みたいな形で売っていく。県産の何か表示をいただいて、県内のスーパーで、これ遊休農地で作った野菜なんですとか、私たちの作る加工品もそういうものを利用したものですよとなるといいと思うのですが・・。耕作放棄地に関しては、打開策というものが私はこれっというものが絶対ないと思うんですが、いろんな知恵を絞っていかないと。このままというわけにもいかないと思うんです。

〔知事〕

おっしゃるとおりに全くそのとおりでしてね。まず最初の普及所ね。前は農業改良普及所というのが全県に12、3カ所あったんですが、それを全部やめちゃって、まあ行政改革ということで、全県下に一つだけ、双葉に一つだけ、そこに集めちゃったわけですね。それじゃ余りにも不便だということになって、私が知事になってからそれじゃだめだと。やっぱりその地域地域になればいけないということで4カ所に復活したんですけどね。元のように10何カ所復活というのはなかなかね、普及員もずっと減っていますからね、難しいんです。4カ所はあることはありますからね、復活しましたから。余り遠いからというようなことで遠慮しないで、もう遠慮なく電話したらいいと思うんですよね。

〔参加者〕

富士吉田でお花を作っています。以前知事さんとお話しさせていただきました。その時に普及センターも復活させますみたいなお話をいただいて。その前からですけど都留1カ所なんですけれど、私たち富士吉田とか南都留のほうは結構農業をしている人が多いので、普及センターの先生方も直接来ていただくと大変です。指導を受けられる地域差ってあると思います。

〔知事〕

鳴沢辺りではずいぶん野菜とか、そういうのを一生懸命作っている人が大勢いるんですよ。その人たちが都留に遠くなっちゃったものだから本当に不便になっちゃってね。増やすという言葉じゃちょっと言った覚えはないけど、その分はよく働かせますから。

〔参加者〕

でも本当に普及センターの先生方一生懸命で、一日に何十キロというのかな、車で移動距離がすごいんですよ。もう北から南のほうまでみたいな形で、だからそれも大変だなと思うので、もうちょっと増やしていただけたらなとは思いますが・・。

〔知事〕

それと共同利用の加工所というのはあるんですか。

〔参加者〕

ないです。

南アルプスでは「ほたるみ館」がございます。あれはやっぱり県の支援を受けて・・・。

〔知事〕

あれは町が造ったり市が造ったりしたもので、その地域の奥さん方が使っていられるわけですね。峡東はないんですか。

〔参加者〕

ないです。私も葡萄のジュースを造っているんですが、これは実はロットがたくさんでないと山梨県では業者が造れないのです。長野の伊那まで持っていきました。なのでそういうふうな、今私たち農業生産法人でもかなりこのジュースを造りたいという方が多いんですが、山梨県にはいい業者がないのです。県でも農業関係でどこか造って下さっているというところはないか、先生方にお伺いはしているんです。ただその細かいところまでやって下さるかどうかというところがまた別な問題だと思しますので。峡東は何せ一番の果樹地帯でございますので、できましたらそういうみんなが使いやすいところでいけたらいいなと思っております。

〔知事〕

今、お住いは菱山ですか。

〔参加者〕

はい、勝沼町菱山です。

〔知事〕

勝沼ですね。甲州市に一つ造ってもらったらどうですか。(笑い)

〔樋川果樹食品流通課長〕

県も国も補助制度があります。

〔参加者〕

例えば何千万とか何百万掛かったら、半分は補助金が出たとしても残りはうちですよ。とても一軒のお家で維持していくということはできません。やはり市とか県とかが・・・。

〔知事〕

具体的に何を、色々なこういうものを搾るものとか、そういう機械も全部入ってということですか。

〔参加者〕

そうですね。すごい新しくなくても私はいいと思うんです。公共なものでありましたら、そしたら使いやすくはなると思うんです。

例えばJA、甲州市だけではなく、峡東ではJAフルーツやまなしとか笛吹とかございますし、そういう農協からも出資させて、県でも出資していただいて、そこにはいろんな添加物とか試験出来る体制とかというのものも、やはりいろんなものを凝縮されたら山梨県として必ずいいと思うんですがね。

〔知事〕

さて、どうしたらいいんでしょうね。ちょっと考えてみましょうね。

遊休農地の話は、これは大変大事な話でしてね。これからこの遊休農地をどうやって有効に利用していくかというのは、これは一番大きい仕事ですね。おっしゃるように私も全く同じ考え方ですけども、若い人の中には農業をしたくてしょうがない人が大勢いるんですよ。そして一方では農業ができないわけですから、マッチングをして農地を賃貸して、中に県とか地元の町が仲介をしてやっていくという形が一番いいんですよ。それはおっしゃるとおりです。それはもう是非そういう仕組みを作っていきたいと・・・。

〔参加者〕

そのことでちょっとよろしいですか。

我が家は農業をやる方のPR施設として、自宅とそれからゲストハウスを開放して、農業体験宿泊とかをやっているんですけど、ボランティアで有料ではない形で。農業をやりたい方として、私もそういう形で山梨に戻ってきたんですけども、まず農地がなかなか借りれない。農業をやっている方は自分が使わなくても人には貸したくない。

〔知事〕

貸したくない、取られちゃうと思ってるんですね。(笑い)

〔参加者〕

それが一つの問題と。あと農業を始めるにあたって、私も消毒の機械とか耕耘機とか、それを入れる物置小屋とか、色々なことで何百万とか掛かりますから、農業をもうやめてしまって機具が空いている方からそれを譲り受けるとか。農家に直接行って話しても相手にしてくれないんですね。ですからそういうバンク、農業バンクみたいなものがあれば・・・。

〔知事〕

農機具バンクというものです。

〔参加者〕

農地および農機具バンクですね。そういう仕組みがあると農地を持っている方も安心して貸せるし、それから都会から農業をやりたいとか、週末農業したいなと思っても、どこに農地の相談とか農機具の相談に行けばいいかすぐ分かるし・・・。

〔知事〕

そういうことを相談する所はあるんですよ。

〔赤池農業技術課長〕

就農支援センターです。

〔知事〕

就農支援センターね。そういう所に行けば・・・。

〔参加者〕

だからその「就農」という大規模じゃなくても、例えば週末農業から始め、私なんかは週末農業から始めてこちらに越してきたんですけども、もっと気楽に利用できるような。名前も農業バンクみたいな・・・。

〔赤池農業技術課長〕

就農支援センターというのがありまして、そこに専門員さんが2人いて、土地からお金から、ワンストップで全部相談できるような体制はできているので、是非相談してみてください・・・。

〔知事〕

余り知られていないね。

〔参加者〕

PRが足りないと思うんですよね。

〔参加者〕

私は「おへそ」というNPO法人を主婦12、3名で立ち上げました。

「おへそ」では地元活性化のため、B級品ですか、今で言うアウトレット品ですが、そういったようなものを、例えば野菜ですとちょっと曲がった物ですとか、大きくなり過ぎた物、そういったようなものを安く売っています。

〔知事〕

ネットを通じてですか。

〔参加者〕

ネットではなくてお店のほうに・・・そういうものを・・・。

〔知事〕

お店を持っているんですか。

〔参加者〕

主婦十何人で立ち上げた時にボランティアみたいな形で家を建てたんです。B級品でも味が本当にいいですから、それを何とかできないかなということで・・・。

〔知事〕

それはいいことですね。大したものですね。通常は、まあ大体農協とか、あるいは道の駅とかそういうのでやるわけですが、個人でおやりになっているというのは少ないですね。

〔参加者〕

たまたまうちの長女が農家へ嫁ぎまして、ちょっと私も手探りという形で少しずつ手伝いまして、農家の大変さを勉強している最中なんです。

〔知事〕

そうですか。いやいやそれはご苦労さまですね。是非がんばってもらいたいですね。

〔参加者〕

山梨県出身で神奈川に住んでいて、定年退職で戻ってきたんです。その時にちょうど家を探すのに携わった方が北杜市方面に大勢いらっしゃるんですね、270世帯ぐらいのグループが。その方たち、もう皆さん素晴らしい方がいらっしゃるんですよ。それぞれ本当に芸術面でも何でも、しっかり農業も携わったり。その中の一つのクラブで千坪ぐらいのスモモ畑が放置されてあるからということで、仕事集団で作業をしているんですね。本当に完熟の物を採って食べて、自分たちが食べるのと親戚に送ってあげるということで、皆さんにすごく喜ばれる。今は完熟がすごく見直されて、今はやっています。

〔知事〕

それがこのファーム T S U G E と言うんですか。その270人の方々のための・・・。

〔参加者〕

いえ、それとは全然別で、私が個人的にそれには入っているんですけど。私は個人でちょっと農業したいなと思って来たんですけど、来た時は本当に家の回りからどこを見ても荒れた桑畑なんですね、放置されたままで。猿の住いみたいなのがいっぱいだったんですけど、やっと北杜市も腰を上げて調べてきましたしね。特にここ1、2年見ていると、桑畑が大通りに面した所は整地されて抜根されて来ています。ちゃんと市も動いて来ているなと思います。

〔知事〕

県の遊休農地というのを調べましてね、どこに何があるかと全部調べて、そしてそれをどうやって使うかということは今市町村が盛んに計画を作っているんですよ。

〔参加者〕

最初こっちに越して来た時に市役所に行って聞いたんですけどね。まだそれが手を付けたばかりだったという段階でまだできなかったんですけど、今になって近場で感ずるようになりましたね。

〔知事〕

遊休農地で草ぼうぼうになったり、あるいはもうかなり木が太くなっちゃったのがありますよね。ああいうのを全部きれいにして、農業ができるような形に全部整地を、今年ぐらいにできるんですかね。例のふるさと農業何とかというもの。

〔有賀農村振興課長〕

今年もやりますし、これからも・・・。

〔参加者〕

申請したりもしてます。遊休農地だけではなくて畑をきれいにするという政策があったんですね。その2分の1の補助金が国から一応出るものなんですけど・・・。

〔知事〕

それは違うんだよね。

〔有賀農村振興課長〕

今年から国も本腰を入れて遊休地対策をやるということで、従来からもあったんですが、今年はそれ以上に遊休地の再生活動、その抜根したり草刈りするだけじゃなくて、そこに今度は有機肥料の投入ですとか、種蒔きなど、そこまでコラボするような形で今年からやり始めます。

〔知事〕

全部きれいにしてね、耕してくれる人がいるのであればそれはそれでいいしね。いなければ菜の花でも植えて菜種採ったりね。

〔参加者〕

今のことはどちらの部署にどのように聞けばよろしいでしょうか。

〔知事〕

私が言っているのは例の雇用対策、この緊急の雇用対策の一環として、要するに失業された方々の雇用の機会を作らなきゃいかんと。国からお金があるんですよ。それを使って都道府県や市町村がいろんな知恵を出して考えているんですが、その一つとして県がや

ろうとしているのはそういう失業された方々を短期的に雇って、そして遊休農地の所を全部整地をすると。そしてすぐ耕せるような状態にですね。そうしないと回りで畑をやっている人が非常に迷惑するじゃありませんか。そういうことを今やろうとしているんですね。

〔参加者〕

是非それは進めていただいて。

〔知事〕

それはどこに頼むんですか。

〔有賀農村振興課長〕

それは農政事務所のほうへご相談されたらと思います。いずれにしても遊休化した所を次に作る方がいらっしゃるといふことの前提でも・・・。

〔参加者〕

うちの実家はすごい遊休農地になってしまったんですね、例えばそのあとうちが必ず作りますよみたいになっていけば大丈夫ですか。

〔知事〕

それは大丈夫ですね。

〔参加者〕

大丈夫ですか、分かりました。是非是非、すごい遊休農地がどんどん進んでいってしまっているのです・・・。

〔知事〕

そうですね。何なら遊休農地は全部任せますよ。(笑い)

〔参加者〕

そのぐらいがんばりますので、是非・・・。

〔参加者〕

私は塩山で果樹をやっているんですけど、逆に畑がどんどん家になっていくという現状です。消毒一つにしても回りの5軒全部に電話をして、「すみません、明日の朝天気が良かったら消毒します」という感じで、だから近所とのお付き合いもうまくやったりとか、すごく大変になってきています。やっぱり土地の集約というのはとっても大事なことだと思います。

後継者不足に関しても、私の回りでは40代、50代の男の人が農家を継いでいるんですけど、お嫁さんがいない。子どもができない。そして私なんかも友達が、農家友達は同世代ではないので、こういう会に来ればやっと農家の話ができるという感じですよ。結婚

しても東京に戻っちゃったりとか、農家の奥さんはやっぱり大変なことが多いので、行政で子育て支援とか、この5月、6月、土日も休みのない農家の忙しさを何とか支援してもらったりとか・・・。

〔知事〕

農作業の忙しい時ですね。

〔参加者〕

そういうことをお願いしたいなあと思います。

〔知事〕

農作業の忙しい時に子育て、子どもさんを預かったりとか、そういうことをやっている所はあるんですか。

〔参加者〕

私、実は元保育園の保母でして、でもやはりすごくそれは感じます。もううちの息子は18歳になっているんですけども、その当時はなかったんです。今は結構延長保育をしてくれる所があったりしますし、今は割と遠くからも受け入れてくれます。

〔参加者〕

そうですね、甲州市だと受け入れてくれるとか・・・。

〔参加者〕

ただ送り迎えをしている時間ももったいないですよ。近くに本当は預かってくれるところがあれば・・・。

〔参加者〕

やっぱり同世代がいないと若い人が続かないような気がする。大変なことでも仲間がいればこうやって話したりして、やっぱり大変だよなんて言いながら・・・。

〔知事〕

確かに孤独だとそうかもしれませんね。

〔参加者〕

よろしいでしょうか。私、こっちに戻ってきたとたんに感じたことは、専業農家がほとんどいないんですね。うちの部落で百何十軒あって、そのうちの二軒ぐらいが専業農家で、お嫁さんがいないんですね。ほとんどの方はお勤めに出ています。ご主人がお勤めです。

〔知事〕

みんな兼業ですか。

〔参加者〕

兼業です。今75歳ぐらいの方が主力でやっていますけども、5年もすればほとんどいなくなってしまうのと、それからせつかく意気込みを持って専業農家の後継者として20代の方が就農しても、お嫁さんがいないというのが一番困るので、若い人たちが住みやすい農村をつくるようなことをお願いしたいと思うんですけども。

〔知事〕

お嫁さん対策・・・まあ県も一回やったことあるんだね、試しにそういう結婚相談員をやっておられる方々に応援しましてね、ずいぶんやったこともあるんですが、なかなかうまくいかない。

〔赤池農業技術課長〕

農協に結婚相談員がいます、いるんですけどそこがなかなか高齢、色々活躍が・・・。

〔知事〕

まあ仕事はきついし、収入が少ないですしね・・・。

〔参加者〕

何か観光課と相談して農業体験ツアーとかいって、ツアーを企画して連れてきてやったりとか、そういうのも無理ですかね。お見合い体験みたいなことをしながらとか、楽しみながら出会って、「あっ農業って楽しいから来てみようかな」みたいな・・・。

〔知事〕

農業が本当に好きな方ならばね、そうですね。

〔参加者〕

多分そういうのに応募する人は好きなんでしょうね。

〔知事〕

そういう人もいるんでしょうけどね。

〔参加者〕

うちの辺は専業農家が多いんですけども、40代、30代、みんなお嫁さん、いいお嫁さんもらってきますよ（笑い）。

〔参加者〕

地域ごとの、地域の村意識が余りにも強い所というのは魅力がないんです。若い女性にとって魅力がなくて、だから若い女性に魅力のある農協、若い女性に魅力のある農村、若い女性に魅力のある市役所と（笑い）そういう所で結婚相談しないと・・・。

〔知事〕

若い人に魅力ある農協って、どうしたらいいんでしょうかね、若い女性に魅力というのは。

〔参加者〕

お嫁さん問題に繋がっているんですけど、うちの畑の隣で田んぼをやっている家では、ご主人がご高齢で具合が悪くなってしまいました。そしたら息子さんが農業をするって言ったんですけど、お嫁さんが余り乗り気じゃないんですよね。だから農家のお嫁さんをまた支援するようなことを考えないと、せっかく息子さんが農業のほうに向いてきても、お嫁さんがついてこないと、魅力がないとだめなんです。

〔知事〕

皆さんのように農業が好きな女性ならいいんですけれどもね。

〔参加者〕

でも女の人って一度向くともう一生懸命になりますから。向かせる努力を・・・。

〔参加者〕

だから向かせる魅力を山梨の農村が持つということですよ。

〔知事〕

こういうものがやっぱり売れることでしょうね。

〔参加者〕

そうですね。

〔参加者〕

まあね、儲かることですねかね。

〔参加者〕

その点ではこのネット山梨県全体の宣伝になると思います。

〔参加者〕

がんばっても何も得るものがないと、やっぱり皆さん、大変でもね、やってそれなりの物が手に入れば皆さんまた目を向けるじゃないですか。

〔知事〕

そうですね。皆さんのこういうグループがどんどん広がっていけばいいですね。

〔参加者〕

それとやっぱり技術をもっと開発、研究してほしいです。科学はどんどん進んでいるのに、葡萄の種抜きももう何十年とこうやって、ずっとコップでこうやって（笑い）。真っ赤になっちゃって、あれじゃ女の人はお買い物にもちょっと行けないですね。そういう何か新しいものが・・・。

〔知事〕

ジベレリン処理のやり方がね。あれは技術はどうなんですかね。

〔赤池農業技術課長〕

現状でも色々研究して日進月歩やっているんですが、特に画期的なというのはなかなかできないものですから。

〔知事〕

ちょっと噴霧すれば、ぱっとこうなるとかというのがあればね・・・。

〔参加者〕

やっぱりお休みがほしいとか、今の若い人は。そこでやっぱり技術を開発して、何とか何か集約できるようになればまた違うと思います。

〔参加者〕

ゆとりのある農業がね、暮らしにゆとりがないとやっぱりお嫁さんも来ないよね。

〔参加者〕

ハウスなんかは温度管理をパソコンとか、携帯とかでやっている方もいらっしゃるようですが。

〔参加者〕

でも、それはまたそれで大変です。お金が掛かるんです。

〔知事〕

奥さんはそれで県からまた審議会の委員だとか何とか頼まれて。

〔参加者〕

農業がよければ自分の子どもを後継者に必ず育てます。なんですが、みんな育てられないのは、農業で生きていけないから育てられないじゃないですか。

ただうちの息子は、実は小さい頃からうちの育て方が多分いい（笑い）。おじいちゃんが

多分いい育て方をしているので、幼い頃から農業者になりたいというふうな意思はあるんです。山梨県の農業を伝承するには、30代、40代ぐらいの世代の女性がやっぱり活気付いて、楽しく農業ができるというふうな県にならないと。私は農業立県山梨になっていただきたいと思うので、それを実現するためにやはり子育てもがんばりますし、農業もがんばっていく。そしてこういう仲間とともにいろんな商品を開発したりもしていく。やはり女性が活気付くとお嫁さんも絶対来て下さいますし、県自体もかなり、80万人しかいませんが半分以上は女性なので、女性が生き生きしている県だともっとよそから魅力のある県として認識がされると思います。

〔知事〕

その通りですね。

いいお話を聞かせていただいて本当にありがとうございます。

〔司会〕

それでは思いはまだまだつきぬ訳でございますけれど、おおむね予定をした時間となりましたので、最後に知事のほうから感想を含めまして締めのごあいさつを。

〔知事〕

本当に切実な、日頃こういった農産物を作り、あるいは販売をしようとして努力しておられる皆さん方の非常に切実なお話を承って、大変に得るところが多かったです。

おっしゃることがなかなか全部できるかどうか、考えますけれども、お嫁さんの問題とか、全部できるかどうか分かりませんが、貴重なお話をできるだけこれからの農政に役立てていきたいというふうに思っております。皆さん方はある意味じゃ山梨県の農業の一番のトップを走っている皆さんですから、女性がもっと農業に関心を持ち、そして農業に入ってこれるように、皆さん方のお力も是非お借りをしたいと思ひましてね、こういうサークルがもっともって輪が広がるように、あるいはお一人お一人が地域でこういうサークルをお作りいただいて、もっと女性が農業に参入できるように、そういうことにもまた是非力を貸していただきたいというふうに思いますね。

何にしても色々と問題点とか要望とか、そういうことがあったら県なり市町村、県の場合にはそういう普及センターとか、あるいは農務事務所がありますから、そういう所に遠慮なくおっしゃっていただきたいと思うんですね。

皆さん本当に今日は貴重な時間を作っていただいてありがとうございました。皆さん方のこういう物が大いに売れるように、それから富士の国やまなし館、もし必要ならばいつでも言って下さい。こういうものを販売するチャンスもありますから、それも大事なことです。まあ何でも遠慮なくおっしゃって下さい。今日はどうもありがとうございました。